

部門費計算 第9問 問題

小岩製作所では、相互配賦法（第2次配賦は直接配賦法による簡便法）を用いて、補助部門費の配賦を行っている。次の資料にもとづいて、下記の問いに答えなさい。

(配賦基準資料)

	合 計	切 削 部	組 立 部	動 力 部	修 繕 部	工場事務部
従 業 員 数	20 人	4 人	6 人	4 人	2 人	4 人
修 繕 時 間	140 時間	70 時間	42 時間	14 時間	14 時間	—
機械運転時間	2,600 時間	1,092 時間	728 時間	600 時間	180 時間	—

問1 部門費配賦表を完成させなさい。

問2 問1の部門費配賦表にもとづいて、第2次集計の仕訳を一括して行いなさい。ただし、使用する勘定科目は、切削部、組立部、動力部、修繕部および工場事務部とする。

問1

部 門 費 配 賦 表

(単位：円)

費 目	合 計	製 造 部 門		補 助 部 門		
		切 削 部	組 立 部	動 力 部	修 繕 部	工場事務部
部 門 費	1,600,000	550,000	408,000	320,000	162,000	160,000
第 1 次 配 賦						
工場事務部費						
修 繕 部 費						
動 力 部 費						
第 2 次 配 賦						
修 繕 部 費						
動 力 部 費						
製 造 部 門 費						

問2

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

部門費計算 第9問 模範解答

問1

部門費配賦表

(単位：円)

費目	合計	製造部門		補助部門		
		切削部	組立部	動力部	修繕部	工場事務部
部門費	1,600,000	550,000	408,000	320,000	162,000	160,000
第1次配賦						
工場事務部費	160,000	40,000	60,000	40,000	20,000	—
修繕部費	162,000	90,000	54,000	18,000	—	—
動力部費	320,000	174,720	116,480	—	28,800	—
第2次配賦				58,000	48,800	—
修繕部費	48,800	30,500	18,300			
動力部費	58,000	34,800	23,200			
製造部門費	1,600,000	920,020	679,980			

問2

借方科目	金額	貸方科目	金額
切削部	370,020	動力部	320,000
組立部	271,980	修繕部	162,000
		工場事務部	160,000

【解説】

問1 簡便法の相互配賦法では、1回目の配賦計算は他の補助部門にも配賦を行うが、2回目は直接配賦法と同じように、製造部門にだけ配賦を行う。また、たとえ相互配賦法であっても、自分の部門に配賦することはない。

(第1次配賦)

工場事務部

$$\text{切削部} ; \frac{160,000\text{円}}{4\text{人}+6\text{人}+4\text{人}+2\text{人}} \times 4\text{人} = 40,000\text{円}$$

$$\text{動力部} ; \frac{160,000\text{円}}{4\text{人}+6\text{人}+4\text{人}+2\text{人}} \times 4\text{人} = 40,000\text{円}$$

$$\text{組立部} ; \frac{160,000\text{円}}{4\text{人}+6\text{人}+4\text{人}+2\text{人}} \times 6\text{人} = 60,000\text{円}$$

$$\text{修繕部} ; \frac{160,000\text{円}}{4\text{人}+6\text{人}+4\text{人}+2\text{人}} \times 2\text{人} = 20,000\text{円}$$

修繕部

$$\text{切削部} ; \frac{162,000\text{円}}{70\text{h}+42\text{h}+14\text{h}} \times 70\text{h} = 90,000\text{円}$$

動力部

$$\text{切削部} ; \frac{320,000\text{円}}{1,092\text{h}+728\text{h}+180\text{h}} \times 1,092\text{h} = 174,720\text{円}$$

$$\text{組立部} ; \frac{162,000\text{円}}{70\text{h}+42\text{h}+14\text{h}} \times 42\text{h} = 54,000\text{円}$$

$$\text{組立部} ; \frac{320,000\text{円}}{1,092\text{h}+728\text{h}+180\text{h}} \times 728\text{h} = 116,480\text{円}$$

$$\text{動力部} ; \frac{162,000\text{円}}{70\text{h}+42\text{h}+14\text{h}} \times 14\text{h} = 18,000\text{円}$$

$$\text{修繕部} ; \frac{320,000\text{円}}{1,092\text{h}+728\text{h}+180\text{h}} \times 180\text{h} = 28,800\text{円}$$

(第2次配賦)

修繕部

$$\text{切削部} ; \frac{48,800\text{円}}{70\text{h}+42\text{h}} \times 70\text{h} = 30,500\text{円}$$

動力部

$$\text{切削部} ; \frac{58,000\text{円}}{1,092\text{h}+728\text{h}} \times 1,092\text{h} = 34,800\text{円}$$

$$\text{組立部} ; \frac{48,800\text{円}}{70\text{h}+42\text{h}} \times 42\text{h} = 18,300\text{円}$$

$$\text{組立部} ; \frac{58,000\text{円}}{1,092\text{h}+728\text{h}} \times 728\text{h} = 23,200\text{円}$$

問2 仕訳の借方の金額は、次のとおりである。

$$\text{切削部} ; 40,000\text{円} + 90,000\text{円} + 174,720\text{円} + 30,500\text{円} + 34,800\text{円} = 370,020\text{円}$$

$$\text{組立部} ; 60,000\text{円} + 54,000\text{円} + 116,480\text{円} + 18,300\text{円} + 23,200\text{円} = 271,980\text{円}$$